

## 第6学年 国語科学習指導案

指導者 田保 衣子  
場 所 3F 6年教室

1 単元名 作品の世界を深く味わおう  
教材名「やまなし」 資料「イーハートーヴの夢」

### 4 指導計画と評価計画（総時数8時間）

時 次	目 標	主な学習活動	評価規準（評価方法）	評価観点		
				関	読	言
1	第一次	「やまなし」の感想を発表し、学習の見通しをもつことができる。	・本文を通読後、初発の感想や疑問を交流し、学習計画を立てる。 ・「やまなし」にこめられた宮澤賢治の思いについて「やまなしの紹介文を書こう。」というめあてをもつ。	・物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考え方を知ろうとしている。 【発言・行動観察】	○	
2		「五月」の幻灯の登場人物の会話や作品の中に使われている表現を味わいながら、自分の考えをもつことができる。	・「やまなし」の五月の場面に描かれている情景を想像する。 ・擬態語、擬声語、比喩表現、かにの兄弟の会話に着目して、五月の谷川の水底の様子をイメージ画で表す。	・場面の様子をとらえて、優れた叙述に気づいている。 【発言・ノート】 ・比喩などの表現上の特色について意識している。 【発言・ノート・ワークシート】	○	○
3 · 4	第二次	資料「イーハートーヴの夢」や「セロ弾きのゴーシュ」を読み、宮澤賢治の生き方や考え方について考えることができる。	・「イーハートーヴの夢」を読み、賢治の幼少期や農学校の先生としての理想、賢治の作品に込められた賢治の考え（思い）をまとめる。 ・「セロ弾きのゴーシュ」の作品を読み、賢治の作品に込められた賢治の考え（思い）をまとめる。	・作者のものの見方や考え方について気づいている。 【発言・ノート】  ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、賢治の作品や考え方を知ろうとしている。 【発言・ノート】	○	
5		「十二月」の幻灯の登場人物の会話や作品の中に使われている表現を味わうとともに、「五月」と対比しながら、自分の考えをもつことができる。	・「やまなし」の十二月の場面に描かれている情景を想像する。 ・擬態語、擬声語、比喩表現、かにの兄弟の会話に着目して十二月の谷川の水底の様子をイメージ画で表す。 ・五月と対比して類似点や相違点を話し合う。	・場面の様子をとらえて、優れた叙述に気づいている。 【発言・ノート】  ・比喩などの表現上の特色について意識している。 【発言・ノート・ワークシート】	○	○
6	本時	「やまなし」に込められている作者の思いについて考えることができる。	・題名が、なぜ「やまなし」なのかを読み取るために、五月や十二月の対比を想起したり、賢治の他作品と関連づけたりして、作者の思いを交流する。	・二つの場面を比べて読んで、他の作品とつなげたりして、作品の特徴や作者の思いをとらえている。 【発言・ノート】	○	
7	第三次	「やまなし」で宮澤賢治の生き方や考え方方が表れる紹介文に表し伝えることができる。	・書評の書き方を知り、感想や読み手がとらえた作者が作品で伝えたいことを読み取り、作品の紹介文にまとめる。	・作者の考え方を視点にして作品を読み、自分の考えを紹介文にかけてまとめることができる。 【発言・紹介文】	○	
8		「やまなし」の「紹介文交流会」を開き、自分の考えを友達に伝えることができる。	・作品の紹介文を聞き、心に残る場面や言葉を選び、ノートに視写し、全員で「やまなし」を音読する。	・作者の考え方を視点にして作品を読み、自分の紹介文を説明することができる。 【発言・紹介文】	○	

## 5 本時の学習（第6時）

- (1) ねらい 「やまなし」に込められている作者の思いについて考えることができる。
- (2) 評価規準 読 二つの場面の対比や他の作品との関連づけを通して、「やまなし」に込められた作者の思いについて考えている。
- (3) 準備 前時までの学習掲示 宮澤賢治の写真
- (4) 展開

過程	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・評価○ 支援○
つかむ (3)	<p>1 前時の学習をふり返る。 ・十二月にしか出ないのに「なぜやまなしにしたのかな。」「やまなし」という本を書いて作者は、みんなに何を伝えたいのかな。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。</p> <p><b>課題</b> なぜ、題名を「やまなし」にしたのか、宮澤賢治の思い（伝えたいこと）をいろいろな作品と比べて考えよう。</p> <p>3 自分の考えを書いて、ペアで交流する。 ・「五月」と「十二月」の対比から ・「イーハトーヴの夢」から ・他の作品から</p> <p>4 自分の考えを発表する。 ・五月のかわせみは、川の中の魚をねらい食べる。かににとって恐ろしいものより、賢治は川の中でも十二月の月光の中にも明るい世界もあるし、やまなしの実もひとりで落ち、おいしくなることで誰かのえさになり生き物の命につながっている。だから、賢治のやさしい生き方に似ている。  ・「イーハトーヴの夢」の伝記に、「暴れる自然に勝つためには、みんなで力を合わせなければならない。力を合わせるには、たがいにやさしい心が通い合っていかなければならない。」(賢治の考え方)から、やまなしは川に落ちて誰かのえさになるというやさしさであると考えると、人のために自分でできることをする=やまなしの行動と結びつく。</p> <p>・「セロ弾きのゴーシュ」の中では、「セロが下手でも自分の音楽で野ねずみやたぬきなどの病気を治すことができるのを知る」という内容から、このやまなしも誰かのえさになることで命がつながっていることと似ている。だから、題名がやまなしになっている。  ・「よだかの星」の中では、「よだかは、みにくい鳥で、仲間からおどされていた。その自分が生きるために小さい虫を平気で食べその命をうばっていることに気づく。」という内容から、「仲間はずれはいけない。」ということを言っている。人も鳥もどんな生き物の命も大事だから、この題名にした。  〔題名「やまなし」=自分の命をけずり、だれかのためになっていることが自分の喜びである。この賢治の思いがある。〕</p> <p>5 友だちの考えを聞いて意見を交流する。 ・「私は、～だと思うのですが、～さんの考えを聞いて質問したいのですが。」 ・「ぼくは、～さんの意見を聞いたら、自分の考えがさらに深まりました。」 ・「～さんの考えを聞いて、自分の考えと似ているのですが、～さんの説明の仕方がよかったです。ぼくも、まねしたいです。」 ・「～さんの考えを聞いて、宮澤賢治の生き方がよくわかりました。」</p> <p>6 本時のまとめをする。</p> <p>題名を「やまなし」にしたのは、○○○の考え方や○○○のものの見方をしているからである。 宮澤賢治の伝えたいことは、○○○であると考えられる。 他の作品と結びつけて考えるとわかりやすい。 (例)「題名を「やまなし」にしたのは、平和の願い、命の大切さを、読み手にも受け止めてほしいと願っている。だからこの題名にしたと考える。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返り、本時の内容につなげられるよう学習の計画や既習の内容を掲示しておく。</li> <li>自分の考えを書く手立てとして、既習ノートや掲示物を活かしながら「五月」や「十二月」の違いや共通することを想起させる。</li> <li>自分の考えを書いた後、既習を生かし、「なぜ題名が、やまなしなのか」をペアで交流させて全体発表への足がかりにする。</li> <li>自分の考えを発表するときは、三角ロジックを使って説明させる。</li> </ul> <p>○二つの場面を対比したり、他作品と関連づけたりして「やまなし」に込められた作者の思いについて考えている。読【発言・記述内容】</p> <p>○自分の考えが思うようにまとめられない児童には、既習内容の掲示を示したり、ノートを参考にしたりするよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮澤賢治の作品を読んだ感想を手立てとして考える。</li> <li>「やまなし」と他作品との対比では、相違点や共通点を見つけて説明できるようにする。</li> <li>意見の交流では、友だちの考えと比べて聞いて、考えの気づきや変容などを発表させる。</li> <li>一人一人の思いを大事にし、本時のまとめは、それぞれ児童の言葉で行う。</li> </ul>
学び合う (25)	<p>6 次時の課題をつかむ</p>	
まとめる (7)		

(5) 筋道を立てて説明するための本時の位置付け

付けたい力	教師が求める説明	支援
作者の思いを読み取るため に複数の本や文章を比べて 読み、他の作品と関連づけな がら作者の思いを考えるこ とができる。	他の作品の読み取りを根拠に、宮澤賢 治の考え方や生き方・願いを理由にし て、題名を「やまなし」にした作者の 思いを説明することができる。	他の作品の文章や言葉を使っ て、自分の考えを説明するよう に助言する。

(6) 板書計画

